

共にしあわせ産みだす日本共産党

市議団ニュース

No 1820

2016年11月6日

日本共産党根室市議団
根室市宝林町4-203

TEL 23-6023

FAX 24-1684

日ソ混住時代の記録資料展

根室振興局（北方領土対策根室地域本部）は、終戦直後の1946年ソ連占領下で、「日ソ（ソ）の両国島民が混住していた時代」の写真集を入手、その写真集を引用した「日ソ混住時代の記憶」とする資料展をスーパー「マルシェ」で12月16日まで開催しています。



マルシェで10月26日から始まった写真資料展

ロシアの研究者が編集の写真集

写真集は昨年サハリンの博物館で道の古文書関係の職員が見つけたものです。写真集は一般向けではなく、研究者等に出版されたもので、非売品。「千の島を巡る1946年クリル探検」の表題で230枚を超える四島での当時の暮らしの写真正が収録されています。中にはすでに写真に写っている人たちの所在が確認されつつあるものもありますが、今から70年

も前の写真であるため、写真を入れ替えての展示する間に写っている人で心当たりの人は、振興局に連絡をと呼びかけています。

写真集には色丹、国後、択捉島などでの生活の様子や、ソ連占領下での「日ソの混住時代の記憶」を文字通り思い出せるものばかりです。択捉の留別の小学校の一風景には、着物の女子、スカート姿の女子等当時の子どもたちの様子もいきいきとあらわに写真も残っています。

写真パネルは、日本人が移っているもの6枚ワゴンセットを毎週金曜日に替え、合計で42枚を展示する予定となっています。

根室振興局・北方領土地域本部では、「北方領土遺産」の発掘に取り組んでおり、9月には当時の生活用具等を1階に展示、市民が多数訪れました。今回の資料展は買い物客が多く来るマルシェで開催、多くの市民が見てと呼びかけています。

ホタテ貝で汚水浄化

「林活議連」が視察

根室議会の「林業活性化議員連盟」は、先日標津町で、酪農業を営む農家が

が河川へ流失する「産業汚染水」浄化のため、標津農協、標津漁協、標津役場の「3者会議」が取り組んでいる「汚染水浄化」の取り組みを視察しました。

標津町は、酪農業と漁業・水産の町です。酪農業など農業生産額は、年間約百億円、漁業で約40億円、水産業約80億円等で地域経済が成り立っている町です。

酪農業の発展とともに、家畜の糞尿等と機械の大型化で草地に肥料としてスラリー（糞尿などの液体）を還元する等により河川が汚染されること懸念されます。そこで、漁協、農協、町の3者で「産業環境の3者会議」を設置。平成22年度に800℃で焼いたホタテ貝の浄化効果を調査、大腸菌等の汚染が環境基準以下に大幅に減少することを確認。現在「3者会議」の公共的取り組みとしてホタテ貝殻を活用した浄化装置を町内44か所に設置しています。その他河川周辺のごみ拾い、植樹等の事業を行っています。産業環境を考えた参考になる事例でした。視察には、無所属の久保田陽議員、共産党の3議員など8名の議員が参加しました。



右の写真は、農家周辺から流れてくる「汚水」等を「蛇力ゴ」に入れたホタテ貝で浄化し、河川に流している装置です。写真提供は、鈴木一彦議員。